口.遺9
1541

1541

當世民用婚禮仕用鑑要集

序

打しる世代ふる代を六
の物りしの世に今民も
ゆくてあふ坂乃雲絶こし来
るまれしくぶ紀あ貫そしく
出雲の紙乃あとをとうけ賜り
年ゆり相生れ書ふみのこせ
の花咲てみどりれ色を常
盤よぞ都を鄙も在なく
て分派お為の式法をとそを
しすきて其ゆり初りて
とちぶくまでひらくんて

をいてこそいさゝか樺ふちりそむ
とゝ〳〵もゆきの婚式
民家ふをそれ有し書〳〵
むかしの心〳〵きと時〳〵くこ
とぶき易らちめんと次第
をうちこやこさこをけ
〳〵ゝ〳〵

皇都　白水撰集

寛延二乃酉秋

婚礼後撰要式巻上

目録

第一　結納乃次第
　　先書物落〳〵書
第二　舞方結納間板敷の事
第三　目録式〳〵事
第四　右徳相〳〵書
第五　仕者〳〵心得

并書物ならびに

第六 一 同日縁辺あるとん渡

第七 一 仕者逐電せしれる

第八 一 嫁乃方結納請取人の名

第九 一 婿人仕方同道れん名

第十 一 使者寄領人下し別るのる

并口取方婚へのし

第十一 一 仕方花色粧産の事

第十二 一 立挨拶ならる

第十三 一 結納目録文言御招

第十四 一 方請取書面名ならる

第十五 一 同方免粧産ならる

第十六 一 婿人に聖日挨拶ならる

第十七 一 嫁の方婿人とふく取合とる

第十八 一 嫁方婚礼の日とる会挨ならる

第十九 一 黒方花儀の夜式用之の品

其外反歌一式と集め記すこと

一才十懐中の帛用ること

一才十一紙類用ること

一才十二手道具用ること

一才十三書物巻紙類しまい

一才十四家内用ものしまい

一才十五荒々用ること

一才十六道具類

一才十七紙屋員数籠書類なのこと

一才十八長持箪笥の類ゆうん漆

一才十九同ゆうん稽りのすき人

一才二十法度須ひ拵人、抜家のこと

一才廿荷物運ること

一才廿二為持員縁温類

一才廿三右員縁ゝ無り信厚温類

一才廿四為持運りの美婦人なること

婚の日に信友人
かの配偶のこと

一 才卅五 仕者宰領人をすること

一 才卅六 右の相ため負数人なること

一 才卅七 嫁入に音信遣女良のこと

一 才卅八 聟方遣女良花色のこと

一 才卅九 聟方出立いつ幷乃こと

一 才四十 聟方待女良のこと

一 才四十一 右敬うへ役人なること

一 才四十二 手掛行灯湯子用こと

一 才四十三 清蓋押蓋用こと

一 才四十四 祝重用こと

一 才四十五 婚式の音信要用に道具の品

一 才四十六 料理人り 献立

一 才四十七 嫁入家物に次第のこと

一 才四十八 嫁に挑灯のこと

一 才四十九 同道々持りのこと

一 才五十 寸合候のもの

一 才五十一 鏡そうろうもの

一 才五十二 聟仏壇のもの

一 才五十三 紙燭ぢくのもの

一 才五十四 三種盛り所こもの

一 才五十五 侍女衆そうろうのもの

一 才五十六 聟家居小屋そうろうもの

一 才五十七 多勝役人仕こもの

一 才五十八 本町人そうろうのもの

一 才五十九 くろうと役人用ひろう

一 才六十 本町人くろうと町人仕ゆう

一 才六十一 武三扶のもの 三〆九貫

一 才六十二 三〆九貫盃乃仕ゆう

一 才六十三 長柄銚子挑のもの

一 才六十四 らうそくの芯と切べくもの

一 才六十五 三種盛り所けもの

第六十六 一 嫁養と称し隠居のこと

第六十七 一 聟一勝手向こと

第六十八 一 嫁本産に居こと

第六十九 一 嫁乃母親産養小お家居お

第七十 一 聟の母親立居養産こと

第七十一 一 聟密居小着産之事

第七十二 一 婿人養子こと

第七十三 一 聟之兄弟養産こと

第七十四 一 孫産人之事

第七十五 一 孫掛軸所付

第七十六 一 本敬人之孫へ敬乃仕方

第七十七 一 ろう敬人図形ろうの仕方

第七十八 一 産養密居立居養産こと

第七十九 一 賀祝之式初産献立こと事

第八十 一 結び直し仕様

才八十一 一 結び昆布 并 肴

才八十二 一 結び昆布に式三献肴 并 肴

才八十三 一 引渡場子役人のこゝろへ

才八十四 一 産婆母役人心得のこと

才八十五 一 双方初日接拶問答のこゝろ

才八十六 一 三ツ盃ものこと

才八十七 一 嫁の方ゟ産婆ゟ問答心得のこゝろ

才八十八 一 ゟ産目録乃儀

才八十九 一 ゟ目録くゝ肴

才九十 一 産帷のこゝろ

才九十一 一 小袖上下盃ゟ接拶くゝ肴

才九十二 一 ゟ産目録紙次第のこゝろ

才九十三 一 聟くゝ親ゟ産祝礼のこゝろ

才九十四 一 聟くゝ親くゝ名亀ゟ小袖

ものゝ事

才九十五 一 嫁ゟ親祝儀ゟ接拶くゝ

一 九十六 色直衣 着候事
綿ひらし 直衣の事
一 九十七 聟勝手小入 着候事
一 九十八 雑煮うえ 着候事
羽織 ひたけの事
一 九十九 小角の盃
一 百 右俳出 加減候事
一 百一 吸物候事

一 百二 立面物候事
一 百三 組重ねかろう
一 百四 燭台ろうそく 候事
一 百五 本膳 事
一 百六 うる盛 膳 次第
一 百七 待女良国 帯 ぎる伏
一 百八 本膳の上面 のこり
一 百九 吸物次第 のこり

共に
ちくみろし
酒肴さかなのまね

才百一 一 押肴と出と云のゝ

才百二 一 茶とおちゃのゝ

才百三 一 聟舅と共にあるんだ

才百四 一 聟入迎人ゝゝゝ

才百五 一 墨方ひろひ人口数とてゝのゝ

才百六 一 いとゆずりのゝ

共に
親類をなかのゝ

才百七 一 媒妁配商のゝ

才百八 一 聟入産義ゝゝゝ

共に
着産の品

才百九 一 墨方産義縁りのんだ

才百十 一 聟入祝儀のんだ

才百十一 一 聟招宴のんだ

才百十二 一 嫁入結ひ言のんだ

才百廿三 一 聟より嫁方へ送る品々

才百廿四 一 男土産ニ礼の事

才百廿五 一 女方への事

才百廿六 一 聟引出物の事

共に 飾物

才百廿七 一 男より聟へ腰指掛

共に 絵馬

才百廿八 一 聟眼拔文納の仕様

才百廿九 一 聟の母親に礼を遣る事

才百三十 一 聟入の時見苦敷事

才百卅一 一 嫁入の時の事

才百卅二 一 床の飾物の事

才百卅三 一 里の叔母へ渡す事

共に 聟方へ渡す事

才百卅四 一 待女良人に渡す事

一 底面三寶の〳〵

英 洗みがく〳〵

一 かひそひ〳〵そとんぬの〳〵

一 風呂をたく〳〵

一 豐勢の踊舞嫁双ひ居る

英 料理関をこゝ〳〵

一 新屋落りの〳〵

英 双方男女を合せ〳〵

一 夜船落りの〳〵

英 法華

一 新屋落り法華

一 星方賀宵拵童をあるゝ〳〵

一 聲を高和交る役人〳〵

英 脇面小市たゝき法〳〵

一 新屋高和交る役人のま

英 脇面小市あたゝ法〳〵

才百四十五
一 賀の祝り相者なる人と事
共に作へきこと〳〵のこと

才百四十六
一 賀方初度見参花色決定

才百四十七
一 表紙家方人花色のしか

才百四十八
一 表方紙書たる色のんに

才百四十九
一 紙書文章こと大こと

才百五十
一 初度祝儀のこと

才百五十一
一 五十文章のたこと

才百五十二
一 嫁食〳〵のこと〳〵

才百五十三
一 初度ろ〳〵〳〵のこと

才百五十四
一 弘免むしの糯米の搗りのこと
共に 米こ書勇ゑ豆のつそり
焼栗 なんてんのんに

才百五十五
一 塩の清みゑうり形のこと

才百五十六
一 三月月嫁墨形
共に 墨すり迎女義こと

才百五十七
一 賀の方女義口取こてかのこと

才百六十八 一 嫁墨付（とさん）に産れのこと

才百六十九 一 右之通り宰領人（さいりょう）のこと

才百七十 一 墨方右宰領人に成てのこと

才百七十一 一 右に産ためのこと

才百七十二 一 嫁の供（とも）をしたくのこと

才百七十三 一 墨方に産のむすめの親類

共（ともに）知（ひろく）者招（ものしる）こと

才百七十四 一 嫁墨付のうちに聟（むこ）に産のこと

才百七十五 一 聟方親類より墨付のこと

才百七十六 一 墨方右りん気（まんきく）人共（ともに）

張（はり）くのこと

共（ともに） 右見廻者（みまいもの）ためのこと

才百七十七 一 嫁墨付より向うの者に聟のこと

より男女むすびのこと

才百七十八 一 右むすび人数口取（くちとり）てふ

しのこと

才百六十九 一 嫁聖うり海に長左衛門の〳〵

才百七十 一 右嫁小山人遠右衛門〳〵

才百七十一 一 聟一の方右筆領人ほうり

りて右〳〵の〳〵

才百七十二 一 右ゑ免れ右〳〵海へ

才百七十三 一 聟ゑ右左衛門板橋の〳〵

才百七十四 一 嫁親親聖右衛門礼の〳〵

才百七十五 一 聖ゑ右衛門礼聖右のところへ

才百七十六 一 孫婿りの品

才百七十七 一 引渡の品

英〻右聖〻ゆうり乃〳〵

才百七十八 一 湯〻婿りの品

才百七十九 一 かんなの品

才百八十 一 婚後産数婿り乃品

英〻婿聖押養聖〻礼の品

才百八十一 一 聟一入産数婿りの品

才百八十一 一 墨の伝る蓋押蓋の仕方

才百八十三 一 膝西〳〵のゝり

才百八十四 一 長柄銚子提乃品

才百八十五 一 銚子提の〳〵ひろゝり

才百八十六 一 右取の仕様

才百八十七 一 嫁人方へ皆所祝礼のゝり

才百八十八 一 嫁方より役人女衆乃

ムつけのゝり

才百八十九 一 婚式礼内長ゝ事のゝり

才百九十 一 作厨子黒柳書様〳〵品

才百九十一 一 深秘傳析敷〳〵品

才百九十二 一 吉物蓋にはみやう丸品

才百九十三 一 る砂遊茶湯蓋〳〵品

雙紙問答目録終

凡例

一うゑくれ法り婚式は家に
とゝのゆるとあるかしめハ法書の家
し近くを嫁家須宮記ゆゑ出
入ゆゑる而乃鑑要錄の式
書所農工高れゝあ非と要
とす結納法るゝうゝして婚
式初終具のるゝ見縁り
あゝゝもゝごゝくまんくに次
第と順ゝ行ゝハしまゝひゝく
一事ゝゝゝゝ品々ゝゝゝ
外ゝゝ嫁入一通の衣裳花車
道ゝゝゝ乃ゝ荒道ゝに記ゝ

しぐく書紙法式正略
して式法を明らむと式三帙
紙数九仕板紙数多りむとへ盃
の組合年数加へ改の仕板立昌り
乃仕板を抑り波揚を名揚の
結ゆうの畫家居を居立者数乃か
ざりゆう算方墨をもにと
くを張畫を乃くくまづくひか
うくく仕ぐと微細れることハたれ
目次をあくく初りたまふ
ちくれハ色をみく考へ上中下
品々種重りくくむ

婚礼禮筵雲紙上之巻

一 結納乃大概をこゝに記とこれ
ハ准じ種重わくんを

一 白銀　百五拾枚
一 白綸子　五巻
一 紙縮緬　五巻
一 紅梅　五疋
一 綿　拾五把
一 麻糸　五把

一 鰹　三 蓮
一 昆布　五拾本
一 鰹節　五拾
一 鯛　一 掛
一 海藻　一 荷

右の十一種の内七種三種は代銀にて請取申候
残る四種は定式の通り差出申候
尤大略と記し申候と雖も増減有之候
尤其品と雖も其節の値段を以て相定申候

一オ二 結納祝儀書物之事
親戚并嫁人吏娶をまのあたりせざる酒
吸物式は料理を初め書るべし

一オ三 目録は其物の名かつまりまたは
種を以て板紙に書とかく
御べし一切品名の名くらも紙の裏
は尺長を以て書べしとかく御べし
并雲雲くもり御べしくもり
と編ふ

一オ四 目録御指くり書

目録

白銀　百五拾枚
白粉子　五巻
紙煙草　五巻
引橋　五疋
綿　拾五把
麝香　五把
鰯　三連
昆布　五拾本
鰹節　五拾
鯛　一掛

御掛　一荷
[illegible]
月日　[illegible]勤[illegible]
今井正慶[illegible]

一使者向へ差おすゆれ貝緑のごとく次第をあらぶ[illegible]場所せゞ々ともに貝緑のごとく乱ふなら[illegible]げるあうにならぶべし
一貝緑八重は中皇の蕊にのとべ

〜程さは面ぐさにのとぐ〜

一使ふにつけて手代嫁人同名

有べし〜

此度出入安堂と下さりやうと

仰付下行方どの大変と使うとする

これより中〜て貴久おと

ぶさまう〜て目録の通り右

ゐ〜まて〜に手と仕事をする

一男の方面〜く結納之家人

丈ふく衣服同あたり度〜と

目録書物〜

一嫁人使ふと同名みく小社義

一寧ろ人みりの別名たるべ〜

男〜も別下名〜べ〜行事

産宮りく坂口取引べ〜事と

みく茶たぐこ盃おとなり

一ふく使ふ事ハ離縁之義

ぐり吸物組

あと〜

物組重たこの中ぐこの新〜酒肴

をべ〜

一半紙下にうり亭主名家

接拶ふあるも有間宮〜るべ〜

応ままさハ亭主出るに乃ぐど

一目録之ふれ徳利さんのあり と

婚礼のとき取かわす書

右の門目録を取り幾久敷酒

結納とて上ハ高砂下ハ目録

と書

一オ十四 民部より祝のくハ結納の文ハ

ハ大切のものなれハ文代高砂よハ

夫へうつると

一オ十五 結納ためのハ小ハ結納

ハ目録のこと書

ハ目録のこと書

ハなるべ

仕ちゑ

白銀　武枚

巻上下　一具

松原　一束

寿倶

金子　計百疋

松原　五帖

小若男　凡拾人へ

青洞　三貫文

生紙　きしめ

右の捨ぶたべし

一オ十六 翌日嫁人の親方より一礼

挨拶申へきなり

一オ十七 男の方嫁人をもく聟の実父

不ハ下小神のすゑ人を頼へきなり

一オ十八 婚礼の月日を頼合の格式

一オ十九 里方の用ことの品

小袖

歌

一地白　一地紅　一地黒　一白むく
一黄もく　（おの数を調ふ）
一非ゑ類　右同断
一袷数　一単袖　一帯　一ゆもと
一けぐ長　一ゆくく　一表　一ふくん
一まくら　一たび　一かや　一袋ぎ
一かづさ　一こし巻　一ほうし
一線ぶし　一ゑ拭　一老院同　一本綿　金糸
一かぐふん　一こもはん　一ひへ　一紅葉袋
一懐中しゐ
一ゆもじ袋　一鼻紙袋　一楊枝　一鏡かぐ
一市絶　一重ぐ
一紙ゆい
一色紙　一短冊　一為勇　一延紙

一枚原　一すき紙　一奉書　一万年紙
一尺長　一巻紙
一ゑ道ゐ数
一琴　一三味線　一硯箱　一料紙
一行灯　一張箱　一雛　一櫛箱
一櫛笥　一鏡
一鋏　一毛抜　一爪切
一文箱　一刀箱　一ゑぐら
一ふくさ　一ちりかり　一ぶれ箱　小人箱
一ぐるこ　一火乃　一鼠赤　一鼠ぐ
一かさ板　一守刀　一水引　一はし
一絹糸　一ぎり稲　一簇　一絹地
一牛綿糸　一割角　一伽羅　一図
一扇　一常宝機　一同膳　一同箸

才六三
一本類
一百人そ一首勢揚流一源氏物語
一拾月集 古代和歌集 式 十三代集
一万葉集 一ちごろも 一栄花物語 一女四書
一草紙 一こがね小倉和歌双六
一清少納言枕草子 一猫けし袋

才六四
一茶碗
一茶碗 一茶碗 一盃 一盃
一食籠 一カノ人なべ 一小重 一枕箱
一菓子盆 一提重 一大折 一大こし
一手拭 一なこ盃 一双六盤 一番合
一ちげ魚ばこ 一ゑんま 一文箱 一見箱

才六五
一荒ろく類
一てうちん 一ちらし 一湯つぎ 一すげがさ

一かりうさ 一柔和らか 一宮踏 一そうり
一ゆだ 一下駄 一高踏

才六六
一道具類
一御厨子 一墨瓶 一流 一貝桶 一屏風
一荷櫃 一箪笥 一長持 一衣桁
一葛籠 一帯箱 一棚 一行李
右大略めぼしき
一紙月次の壁月次の屏風 高砂
さうの肖べし 於屋の高屏
こしらけつぶ 湯ノ壺べし もつ
うん窪の方よりくかりうん
つくつの作人の入めるし行
さうのこと に女義汁のさい
あれ婦下女ともふ箒をつむ

りのかりこめはまかりかに
ちてぶひ紙をうべし仏あ色
金紙銀屏をつくるべし
一銀紙ふべの色　五十色一枚八金
一同　三ぬりの色　百色　同
一同　写あをり　同　八十色　同
一同　五ぬり　同　五十色　同
一金子百疋　同　三十色　同
一同　紙百疋　同　五十色　同
一同　三帖疋　同　十色　同
一同　五百疋　同　五色　同
一鳥目紙百文　同　十色　同
一同　百文　同　十色　同
右のごとくもの〳〵と分金べし

一扇子紙五束　代　もの用と有べし
ときためよいこはり五帖或八一
束も入て是ハ有べし其外
ちがい紙あるべし
一三ぬり　五ぬり十ぬり多く格金あり
引て中結びのごとく分金
ぬり格金紙屋役人女中にのこ
こゑ性を用ゐ用金しく
くため金紙銀紙ともに
の扇をつくるべし
〳〵其行矢はるりの
一長持筆一箱の紙屋
日紙宮人格箱の負数次第に
ひの通つをり深よおもべし

又染りぬる糸は清らに武八絹布
を黄黄紅花を染入もわり
又ハたるものゝ　まくハ中歌
かゝるさ所たるべし　武八さう
さ染又ハさゝさゝさるも宮ゝ

才九九
一幕当庁に木綿巾めて武丈三尺八寸
長拍一掉に木綿巾めて四丈三尺人
武八面木綿　金巾巾廣めてハ
行宜し　事ハ　あげさ　あひ接ハ
こゝに略す　紙したゝつをりは
うぐゝら天ゝる

才九八
一右仕立様大略如此　易きのこと
紙色お木拵已に嫁入支
如ましまお又人をべし　右略
海めくゝとゞく面し

才二十一
一右月を撰ぶ日に荷物をゝるべし
此月縁ハ色ゝ又ハ毒にのゝ色
ゝゝ色月縁ゝるべし

才九二
一月縁組拵

荷物月縁

一
一
一
一
一
一
一
一
一
一
一
一
一
一
一
一

以上

右之通相違無之ハ（なくの）牛高名員名ハ
かゝゞる

才四三
一はん分ゟの文反に付高名月名を
書付る事より
為勘文反徳振元同〳〵（立員録）

御荷物出員録

一〻
一〻
一〻
一〻

以上

右之通清反申ハ
丑月勘定所内
七郎
判

何月何日

今井四郎兵衛様御内
九郎兵衛殿

才四四
一為勘定之ゟ姫人（ひめと）文弁出之達

る聲の通り荷物沿道を運べし
聲の方為物流通番役人門
口より入るとおしゆんせ番おりぐら
つを附おもてにはるぐるあるふ
て用ゆはうもて人数と用ゐた
番ものぐらに奥へ入べし荷物沿
しる人ものハあるくれ勝よみろ
大方ハうるへゆん入番ものし表口つる
へりんぐしかるぬゆるのためこ
右仕ゆん荷物宰領人見ハ雇人
接拶ゆくく一度爰ゆくくしてゐ
すべしるくゆ別のるるべし
るくとロ義をおとそれを茶或ハ
たばこ盆をいろすす

一仕ゆん宰領人ハ三ツ組の番おし番
離番ものぐり物沿道を背酒
ゆしくたこゆびと芸ハ人合
おすべし地元人番て拵め
番べし婦人同席るべきん
婦人の仁并るべ
るくつゆ近世ものしるる仕接ハ
為物ものく人数ゆく雑番
をおとに番いんぐいいるゆ
宅宰為物又人見のるゆ勝ゆ
雑ゆすせ離番ハ番ぐ切保を
大小にゆくぐいゆハ三切又ハ切板
原紙みゆ紙いる色ゆくく
いる人ぐりゆと三足つけるぐり

の時酒あり〜盃ありて方々の候と
多くよりの女房〜引渡とあるべし
惣勝の宮〜きさきより
一オ四十六 太夫殿れ〜あ法師の格とゆく
同中〜うるべし 一人宮二の島月八
きさ人数三百人完の残りあく可
うるべき所定めうるべし
一オ四十七 婚礼の日夜の行ちたらば八月に
迎女義とてきたれきよりの女義
きの者
一オ四十八 聖方迎女義に成元〜
一オ四十九 聖方迎立に親族とまのきき者
くべし
一オ五十 聖の方仏女に宮盃べし

元中宴のと分の女房たるべきれ
一オ五十一 本敬加へ女中あ人宮盃べし
敬れ仕給無〜けいと賞べし大
略奥にいるくうと
一オ五十二 一〜抑 一引 波 一湯子
太用と英〜抑役人女房宮
右ふる法師奥に奥〜
一オ五十三 法蓋 押蓋用と
一オ五十四 組盃用と元〜盃也
内の所〜書銚 かづけこ米房
元きさハ盃ハ〜ひるは
太子数なり
一オ五十五 婚儀〜英高の道〜北東きさ
一大夫殿 一菓蓋一たびこ金一椀盃〜

一四　一折　一膳台
一小四　一吸物椀　一燭台　一燭台一つ
一火ばし　一たばこ入れ　一手燭　一らうそく
一火鉢　一かんなべ　一ぜん　一盃　一盃
三組　九組　九組　一座敷　一座敷
一茶の間　一式通り

右大略如

一料理人の宴　并に献立次第
一里方家来に次第　并に門火たき

才三番　嫁入婦
才二番　嫁　守り方入る
才三番　母親
才四番　父親
嫁入の支度へ引き居べし

一才四十六　才四十七

一才四十八　才四十九
一才五十

一嫁のうちへ入る役行列
一里方より嫁れる男女共人数の方
〻〻化粧の品のかざり立べし
奥をかざり立べし
一本式三々九度のあとに対面
ちといつて嫁のうつりの毎る
方に向と居直り紋つきあるも
ちと有方のうちに入る紋つきあるも
男女を毎る附老人の支度
と相男ハ平服の方りの向女ハ礼
向ふむこい男子歳しつけハ女ハ男
歳しこと合はせと合すりく
方りこのあるくらるやたのも

ちとたの所へてくさて有もつき合
する〳〵是をお合せりちくりの
一五十二 ぶ打合俵とかぐるんこわ二ワ九三宮に
ぶちせ座よりかぐる九俵の大小か
きるなり
たかくみゆるとあるとちち
と離麦の俵小合せつくるこんん
是八本式の大略四人立に取なを
ぶんとかく略をべし
一五十三 一縁の雲母式麦に付対舞左下
ゆく出雲母のちんの指ふちくるる
とうけらくくおのの小きすくる
寄り袋と縁こしあり舞小
後す舞うけれ小女ち小後を

ゆ女ち守袋とかざくきれ
打打ふうけ是くりこ
一略せは雲母式麦に付対舞女ち
小ちんを燭とおのうれおて
ゆりゆる行女ち小ちぐき女中
きく人縁の出くきあ小寄くく寄
刀とうけ九縁のこうれくくひく人乃
女〳〵守刀と海とそれば縁出る
行行女ちとりぶ化振のうへ海
りとる燭ハさくきる力相去行る
り舞式麦の海月又おれ
くる附守袋と舞小海一寄
はけくゆくの月へおり舞袋
とる行女ち小海と行女ち度麦

のわらさにうけ申
一たゝも燭のしゝへ紙燭ぐしそ
仕てんしゝそれんはうめと洗ひ
んゝめく打おろしたるゝ毒八重
よゝ〜打おぬるとたゝうぬ
一ゝ抑引渡組揚子決の見て奴
ゝたるゝと心見て家のおに京
みぐゝ奴洗ゝる鳳凰ゝ小蕨し
一燈体身弥式祇の見ゝり
待女良ゝとゝ引家ゝおゝ居
の方に出てかひぞへ嫁の方の
にそゝ待女良たりに注とべし
一聟婿ゝゝうお宮居に出る
一侍人の女衣家のおゝるゝ

抑と打おろ嫁ゝ取引決り
聟にゝ引ゝ出ゝうけ初の所ゝ申
待ゝ小入ゝ〜
一女八人家の引渡と打嫁
のおに出ゝて
一加へ敬人女八人小ゝつゝゝ湯
子のこゝ家と決の見に出ゝ申
一女六人男蝶乃すぐとたのゝ
みゝく毒ゝゝり取打たりけゝ
ゝゝ人場ゝのゝそこのゝと取
ゝめゝく打引渡のまゝ〜
居る加へ同〜ゝ小女蝶の湯
ゝと打ゝ敬のゝ中ゝ居
るゝ敬たりへひらさゝゝ

さすり祝詞乃酒を瓶酒をそ
湯ゆ乃砂の仕ゆうを湯ゆの
うことをあすゆくねけぐ事
一式三献 三〜九度
けて盃の〜稲嫁盃〜あ〜へ
る〜いの〜も失ゑ〜りぐれ
はうひぐ〜〜〜〜みこと
さ〜〜と育べ〜れ
第一に嫁とのかう〜けと〜う
こ度川ぐせのむむのひこひぐ
〜たこう〜さる御膳にち
す膳盃を盃〜たの〜〜く
こ度のむ御そ乃盃をけた
こ教ゆ〜ち宴の下に入る新

盃と盃ふる
膳ち〜〜〜〜

げるものなり

一式三歌のこれ番組に指南書は
本歌くらべられる

嫁新盃百人のむ　くらべられむ
くらべさせ　又のむ　盃聲にくらべ
聲　くらべられ　のむ　くらべられ　又のむ
くらべられ　又はむ
聲のたる盃とけれ新
盃永教有下に入盃とる形
盃と百人
聲　くらべられ　はむ　くらべさせ　又乃む
くらべられ　又のむ　盃嫁ふたりす
嫁　くらべさせ　乃む　くらべられ　のむ
くらべられ　のむ

嫁はたらる盃とけて式教有
下に入盃今一枚を新盃百人
嫁　くらべられ　はむ　くらべられ　のむ
くらべさせ　のむ
はし盃聲小ぢと
聲　くらべさせ　のむ　くらべられ　乃む
くらべられ　のみ納ば
右徽如り指南せばよし
一長柄　神よ　指よみの歌の仕ゆう格別
式法ゆ教也裏にのりうに
一らうそくはしらつけ切ことのむ立る
歌　すぐく　第八方　大切のるおの
一式三歌海ちハ引　陽よ初の
しくもくけ歌くこ成おり

一主人の次に女中の居て婚
姻の方へ寄せる
一舞子引渡し引入
一嫁入の時は主人と共に居
り居るべし かひでの嫁の右
に居べし
一侍女に休息所へ引嫁の親
しき方へ案内し宮
居床の方へ寄せる
一舞子親類の人の居の方嫁の居
る方へ寄る

一舞子の居の方嫁の母親の沢よ
居る
一嫁人支度舞子の沢に居る
一舞子し今外の人嫁の沢に居る
右ごとくわく方定る
一仮人は抑右の口取
尤家居の方と嫁人を引続き
別に嫁を例の里
あのもくへもし引べし
居の方へ引べし 新
一は抑引渡へ沢の月宮新
の方に寄べし
は たくり取
は屋の三宮小むつたくり取
八木 三宮の方へ
れ寄へ寄べし 三宮の右
おやうは あの乃湯と寄よの

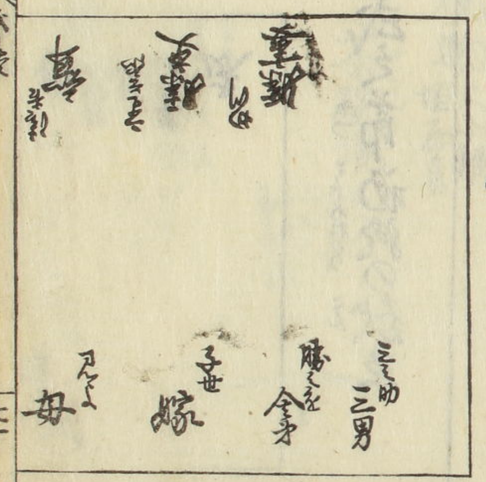
平めくすくひねこ家ぶにへゆび
のかくらぬやうにおおべく
一本敬人家おのくに酒くとれ
りおおむねやうゆ水と同
くくこの月とねおこのこ
たり（まり本方くきの月よ者
ふ沢くこ家のくり敬とつぐあ
にまつ
一かく（本敬人につぐさ立家おの湯
みれこ家と同くやうにねおこの
月後者の内よ出まと
嫁人本敬人に酒を加れ
ねまと有くくれさくく品の
乃あつよ出くく重沢のる（湯よ

をくりりりこ湯よねね
武三秋のくくく
本敬引後くのおよ長るくく
長下にあふ本敬くくくさるつぐの
ひくくにせるつぐ乃むくさるつぐせむ
めに三後の月かくくけとトよ
重ぐる出ふ嫁人長り重をた
れ後（方をくくこの内に三家
り重をる本敬人すぐ方
乃重にねくりのよとこ家乃
くり敬人れまれまに乃せくく
品の方（ねりのこ重う敬れ仕
やくたのくくく
仕くくくは本敬人の屋よつ

きはまるとこのんにて家人意
りは引後湯をとおるなり（白る
とてんにて品のしくゆる在数
の勝手在の沿革の附き居正
発動意（今在の西在宅
（意味附ハ敬人なり（白正
意（主（ものとおもてこの居宅
合同（宮居の下在に居る聲
法意（おりかも敬人（宅
おとなり（白り意法者お（お
りしまてこの居動意（合同く
主居嫁の主（おりに敬人（動意
おとなり（意一白りまりく嫁
のおかみとなるとくく主居の

ふ在代下在（の敬ふまハ
り行り（とうんにて居の方下
在合同（宅居のふ在（おりも
主居のふ在合同（下在に居り
ホ同（一白りまりもつ
ふ（ぐんにて居ハ（なり（立す
ぐに白とを

光七大



一膳式之節初献の献立

二献　さゝふか　海老　あまそり

三献　引さゝふか　なまこ　たゝみこんぶ　酢　搗口

四献　けうたん　略　羽盛

五献　さかなかからすみ　かるたい　鶴　かとてらすぜ　まつのり　昆布

御菓子

御茶　信楽

一番の猪ひろ仕ゆ〻　嫁入お受
ようとくとゆ〻　亟月を通ゆ
らぬゆ〻に　れんつぎを仕組亟
篇すゞ　〻　尤長沙ちいさく
折本み〻　〻　く主次ふ名か
らと書附た　のふ拍ゆく
其亟りみ其篇肖べ　た
月のふ小動物拍ゆ　ハ打も
とらを行ゆ　〻　わゞ
ゆへ亟　〻　ハ打かを下よ亟
扇を打もせふ亟ゆざれさる亦
才一こゝゆく　下にさ　亟バ打
りこりあ猪を行る　りの
なりゆ時の亟れさ　篇は

鬼官ハ一かまの日ごとくこと次
第ぶるれ一番のこと
嫁人爻一の役なり
八十一 一尺長の小刀本に沉爻はりとられ
たのごとし嫁人爻番り
く聟の父爻番初る

動―正―兄世―童―
は―兄世―子―動―
子世―童―兄世―童―

動―童―子世―兄世―
は―童―正―信―
財―は―信―童―
信―正―財―信―
は―童―正―勝―
財―は―勝―童―

正—三—加—は—
　　手　勝
三—重—勝—正—
加—三—正—重—
見世—正—加—動—
は—重—勝—は—
動—加—正—動納

たゝぐ〳〵（たいしゅ）の初（はじめ）り一式
三献を須（べき）一本結び面
を須（べき）の本式たるべしこと
とふ面入（いれ）どゝしくて宜
一結（オ八十二）び面ふ式三献組合須（べき）
れ方乃（のち）ぐ〳〵
於（もと）白結び面須ることは
接拶（せつさつ）ふ〳〵（せつさつ）云（いう）〳〵べし
尤嫌（もっとけん）人中面の考慮する

動—正—見世—る世—
三献組合（ひるむしきみ）—清—重—は—

見世―かゝ―動―金―
重―見世―金―動―
重―金―見世―は―
重―正―清―か―
は―清―重―清―
正―か―清―は―

重―正―勝―か―
は―勝―重―正―
三―か―は―三―
重―勝―正―か―
三―正―重―見世―
正―か―動―は―

—重—勝—巳—勘—

—加州—正—勘納

右之初んの〻ゝに彩色を民
あるゆゑ〻ハ婦人の形色を
はけ結ひ色紙合せふんぷんする色
へとんく〻ゝ蔦のごゝくゝゝゝ
ハ帛付ふ潤へあゝゝゝむゝ殺
の為かハ色に咲ごけらしべ
一結ひ色紙絹りて女敬人た
乃ゑに湯ゝとおたりのゑふ
てゝ引ゝ原しゝのゝり形ゝゑゝへ

平に乃せ汐のるゑゆけに敬
初のゝゝく〻ゝ結り色湯みえ
同ふに初のゝゝくゝゝ宮に匹
色くゝへ女敬ふつゞゝ初の
ゞゝく〻女蝶のすゞとの世色
べゝ紙れハゝ初のゝゝく
ゑ抓　川流　湯ゑ
汐の乃ふ結り色なり
一嬢入舞入嬢式の形義りハ
汐の乃廣風れけふむゞ
ゝゝゝ

こゝわ〳〵はこゝ書すべし
才八十五 一養親ならぬ他姓の輩の親の方
より初め接続する者を記すべし
才八十六 一それより三親あり養三
寶〈式は養父にのせ猶養父の
才八十七 おゝ兄の方〈より也〉
一嫁の方より生れ出おす
に書く室方のこゝをこの
女房の兄弟に書く双方接続初
まりたる時に注記すべし
〈〉貞縁を婦人乃至小家を
べ〳〵婦人舞の親のおり
接続〳〵く差置〳〵

才八十八 一生養貞縁の書様
一舞の方親達兄弟生養貞
縁一枚〳〵に書〳〵
一親類中〈は生養別に生数
ふ出べし〳〵
一生代〈の生養別紙に出し
一生〈乃生養先又別男子〉
一庶縁先又別紙に出し
出す
一接続先別紙に出し
てなり出る縁に注記
生養貞と分〈〉それく書に

のまべ〜親ろんゆ〜たるべ〜
式は中臺つぎひろぶ〜たる
べ〜其外ろ〜へ〜財宝ところ
の

第八十九

貝殻
小袖　一重
帯　一筋
上下　一具
扇子
たゝう紙

貝殻
一編笠　一巻
一墨壺子　一箱
一茶碗　一本
一鉢巻　一箱

貝殻
一かぶと　一疋
一肩衣　一反
一絹　一反
一巻紙　一筋
一同　一筋

第九十

貝殻
一書翰の奥文
御巻新中に

右殻は庭物之大方勝ものの多
か宝合負数極めこの者

オ九十一 一上下

小袖重ね

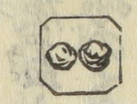
つまの品

オ九十二 一右ハ屋貝縁紙ハ奉書紙ハ上
ゝ打ゝる貝ゝ上分ハ貝
縁をハ右ゝゝ代ゝ乃貝縁
板ゝ京ゝゝるべゝ
べゝいつまれ貝縁ゝも
人数ゝゝばゝゝ
めゝゝゝかゝゝぞ

オ九十三 一聟の親貝縁ゝゝを扱ゝ
ゝゝ次第の通れを選ベ
オ九十四 一聟の方ゝゝ乃小袖一
を 地黒
右廣蓋ゝ乃せ嫁れおゝを
オ九十五 一剛嫁の右親一袴扱有べし
オ九十六 一侍女ハ嫁と紀袴ハ侍ゝ
ゝ通ゝ
産殺へあゝて
ゝゝ嫁綿ゝゝをゝ
オ九十七 一聟ハ綿ゝ乃袴扱ゝに賜
ゝ小入
オ九十八 一雑煮とおす 焼ぐゝふ結ひこんぶ
雑煮の向ハ小前に梅干二ツ

たに四つくり（こまめ）二つたちらを
合せめしすゆるこ酢せば梅れ
たに玄蕊をけてせたのこく
あ方へ形る

一小角の品（才九十九）　玄蕊梅よのちる品



一小雜肴の餅とけざるやうにぶ（才百十）
く塩めて加減しく出すべ
し玄蕊梅出そば雜肴
醫のべくしべ

一玄雜肴入り醬（才百一）
吸物すいものかしら貝とふこ
二つ　めぶ入ものとそ貝とけ二つ
入出しべし

一賀の又盃のこ初嫁の父りさと（才百二）
色より酒盃は礼盛
一ちふ八組重彩三重おのこ書するあ（才百三）
辛房盃ちりく恢亭を飾る
一燭叉燭燭沒る　まいと切るとび（才百四）
一本膳を出と（才百五）
一線乃膳は高盛こ玄蕊常膳（才百六）
とりく盛人食椀のこ盛二り
来乃うきとれ　ひいてぐこふ
小石をきりけるなお膳の

ぞく坪平焼物形る
中式五一序の式盃に嫁婿
まゝ式れも蓋なもの食
まも仕ぞくさ物あれば多
くは紙の品或は別る
結婚お伴みくすむる
九四式とい
一才百七 結婚品はれつ式中式
ども結ひ面ものれば式
才百八 ぞる新面世ぞぐく
一中膳のう〳〵中酒〳〵盃
二献めの八二つ組の盃二
つめを嫁の父親ぞ盃に
四〳〵亭ぞ三つめ大盃

みく初ぞてくよ四〳〵嫁の
父より亭ぞ三つてくさ納
品ぞ面世ぞ義ぞ世げる仕や
うく中ぞ面ぞこ献こ
一才百九 吸物 才一組のれ 才武小鯛
其傍貝ぞ成魚をつくふべし
けるる海老ぞ才二略服りり
才こかくぞみなるべく其傍
は牛ぞ四〳〵成義ぞ元
四〳〵能ば押蓋のけるぞ四
のべ〳〵
一才百十 吸物ぞ〳〵初ぞ附押蓋ぞ燭
蓋のぞさぞ長ぞ方へぞ世
おぞべ〳〵

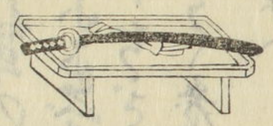
才百十一
一本膳引菓子出す茶ハ
せんぢちやたるべしうとち
やうぢおすすめといむ
才百十二
一嫁れ来る夜式を立れて
聟の母しん勝手まで送
りおべし嫁を傷ものと送
り出べし聟は表口式は
式者をもてまちうけおどべし
初れどくあんを福おか
ゆ
才百十三
一其夜亦聟入の式ハ嫁
の里かたより役人小中分を
あ親内られ沼才聟迎ひ
れ人湾みたるとかまてちや

才百十四
一聟の方むこひの人へ口入
其ゝ上張元内宮を呼よべし
才百十五
一聟入当世ハ母親嫁人支度
誘引す聟の金才ハ
多分内ゝど
才百十六
一聟入当主ハ内ゝとぶぎを
しとて親類ゝ歌ゝ有と和付
成富の者嫁ゝの土産の
一礼ハ式べしちゝ其ゝ乃
格式ゝうゝ代嫁小見へ
とゝげ土産の一徳者ゝ
ハ式べし
才百十七
一夜嫁内かれ人ゝ
ゝ式べ其

才百九
一男方聟入之式んは聟の
方同ようの式ゆりもの
床よりも境屏ハ示へ方つさ
体所ハ式ハ式ハ式ともの聟
の方同ようの式んは
才百十
一聟入の祝之式ハ式
才百十一
嫁入の稽に式ずべ
才百十二
一聟男より交納せ
ントを出すべ
才百十三
一聟入の表祝義の式結
盃の仕方ハ嫁入ハ嫁入
同ようたるべ
才百十四
一結盃酒之表記聟の方の女
中ハ式ハ式の月へ

と嫁人と法を知て女産婦の
女産の格式順す目録れ左く
あれ同しやうたるべし
才百九十四 一男女産の一後産べし
才百九十五 一産せん同しやうたるべし
才百九十六 一男の五ふく強ひ五納りく
り法しへると男より奪
才百九十七 小脇指と引き奪しうよりの
才百九十八 一男のあへ勝ゑより脇指を
奪り居へ指あるけ奪ハ長乃ひさく奪之
男奪より元産と五奪も
産と左双方歩合太刀折紙
の式法とふく立元法し
すくやうなれとも嫁人男

より下学のあ人ふ〜付嫁
人ふ新奪小法五民あの
とあれ八式法西略しく夫
ふ新ふと勝ゑより男の
あに歩〜ゆうの品



男

芝と男嫁人をまゑ紀奪ど
のくらをなるうれと法を
男より嫁人へ法しゆう丸の
方と嫁人のまへよしく柄
のゑ嫁人れ左小欲れり法を

婦人先を蓋に居なうう
受取鋏乃すへ指ゆうんと
とる付鋏差方点合在のる
中あく婦人蓋に乃せゑ
ら鋏のたり人柄のるふ
ト小ゑず鋏あゑとつき
中ぢざする乃ふ婦人ふ篇乃
ちく差うちとり柄鋏北右

婦人

の方ふなり丸ふ乃ぐ中人ふ茶やう
りとり西ー鋏ふ波ゑ、

賀禮祭歌下之巻

第百九十八

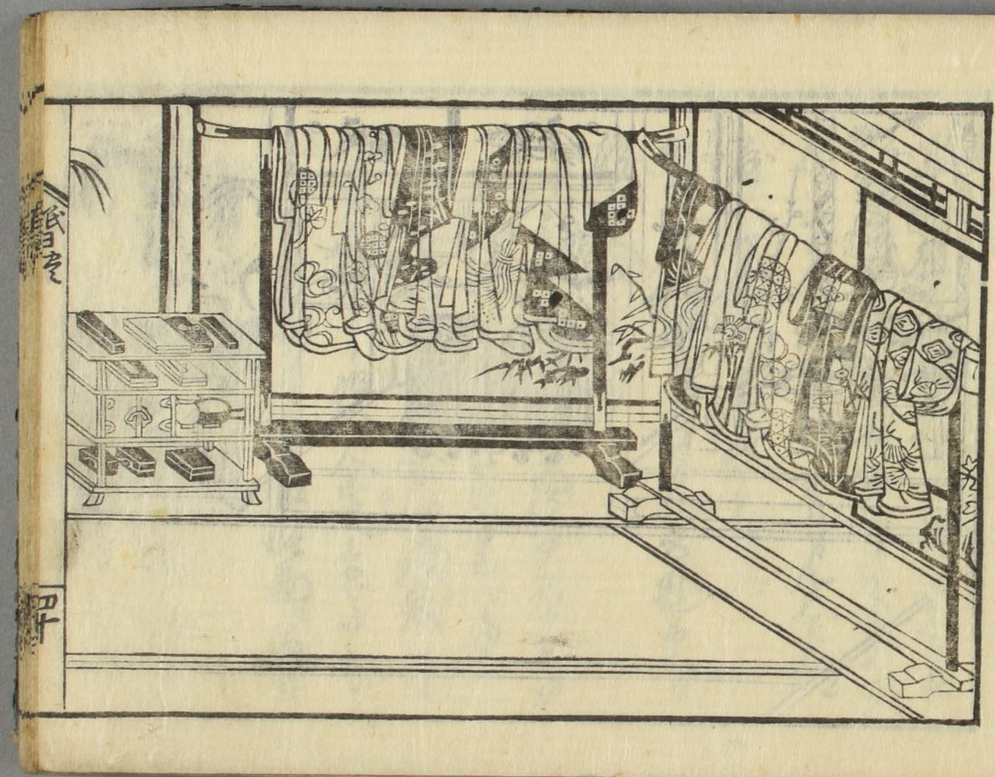
一年の立春拾遺

山蔭の婦人は蕨をとり
いなづるるとくくたりのまをき
きへうけたのまをまきざ
のトへうけまはれ内ゆくあ乃
方我おにあるはよひ移り
まうしてくきさまきばくを
たのまにおたり思うに沃の
見ふたり我まきばくを
りはまゆくめさ所すきゆ
さくをいてくきさるまきば
くとさくゆたゆ所るあり

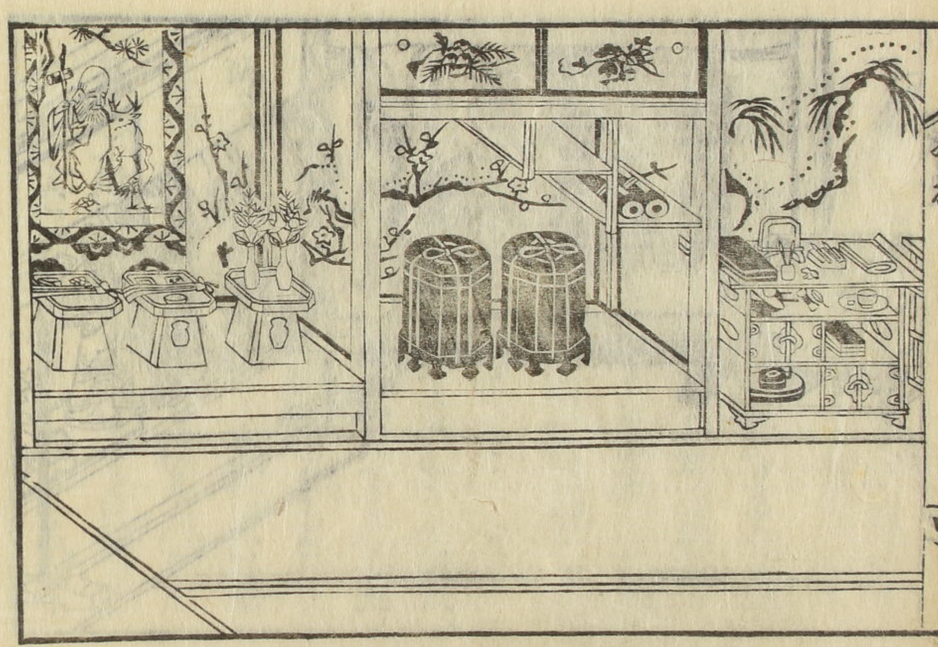
婿く男子縁て礼とい
才百九
一聟の親兄弟ハ兄弟と一礼とい藤
人ハ墓を拵勝手に設して後
本座ハ形る聟方の女義片
すこ〻ろ〻ものこ〻ろ〻きざ〻ものこ〻ろ
凡名へ入る又ハ仮のものり
法を爲〻
右の通りはかハかハ稽古
略〻く腸指を引爲〻
才百三十
一雑煮肴物料理其外者
新法手縁入乃格ハ同〻
うらべし
才百卅一
一盃ハ聟より聟へ入すこ〻男新婦
ら盃て長縁勝ハ中うこ〻

玄関をもむかひハこの家
才百卅二
一座のとり毋ハ小机本式なる
爲〻
才百卅三
一取具ハ毋く墨ものく用
こ〻ん得聟縁同ものの後奥
おもてべ〻ハ九腰を行ハ聟
の後を用こ〻せぶるも有べ
ばらく〻ん奥聟の方ハ
べし
才百卅四
一座とり紙〻ん先縁と行言
葉ものこ〻座ハいざあひ又
才百卅五
聟を用乃こ〻て座ハ雪す
一扱三寶ハ白木を立くり
銚子ものを二ハ扱原紙ハつ

吉平とゝのゝ川ゆくゝ引ゝ
のゝに長壺云器を敬
拭布酒は注屠り舞亟
と取ゝのゝくく嫁ゝと嫁
いゝゝゝ吉亟むゝふゝ舞
亟と酒ゝ肴ゝ伯母良接拭たる
べし
右膳ゝに加へゝゝ男蝶女蝶
の花形を附るかぶりかん
なべもこの宮乳
才百卅六
一うひぞへゝゝ引ゝ沈れるゝ鍋
才百卅七
一引ゝ外べし
才百卅八
一盃敷風呂と立べし
一盃敷膳舞嫁双ひ長
才百卅九
一同新屋祭り里の男女舞此
方男女立合かぶるべし
家乃ゝにゝ
手桶引波湯ゝ強べ
家此腸ゝゝ
奥ゝ寝
右の沢刀は
庖丁裏柳
書柳ゝ表柳小かぶるゝもの
才百卅一
一衣柳祭りゝゝ
衣柳ゝ贈礼の種ゝ
ぐいゝつ武ゝ武つゝべし



一衣桁のうへ乃ちゝに筒守
りを掛か
一衣桁に掛りハうくゝまをまなぐは
ゆくゝむつゝこと見ハよろこハ所と
りて光ゐるべし　たがさりふ袖とく別
ふりつゝあ潤へ立べし　衣桁に教は
うくゝ分繼ぎして乃まちを千六ゝ多ふ
うくゝの繼ふ小袖に乃ちを多あゝ嶽
お繼ぎ紙に白紙お紙ぎとかぎるゝ光繼
里れちゝん大方衣桁　二つ合て宮ゐた
ふりゝんゝたゝれに消し衣桁一つ小袖
ゝ多づ十と繼るべし　光繼ぎに初ゐ
身の小袖に分くべゝ　ゝまゝこ嫁里り
乃おにたゝの袖仕様別ふかけ多ゐなゝ



才百四十二

一墨こうり名羽二重紙はんぢ童子長
祝言の新屋月見舞ふ多ぶか
ゝてどい何さげも月人合新
屋へ美りゝ美べし

才百四十三

一舞方祝式事物を事る
役人の〳〵
花こ新年書物屏面に手ちるもの
書物酒樽の市ちるもの
附書物の〳〵あ金箔張紙等
用ことし〳〵役人宅ちるむ
〳〵あ表面〳〵表屏面ち面ち
屋〳〵〳〵

才百四十四

一新屋へ書物をとゝ〳〵役人の〳〵
作〳〵墨方分計〳〵面〳〵

義と 性面よりあるものを右同じ
せいらうのあるものをまたまたあるもの
附言 うあり右同じ
一 才百四十五 聲の方集り 揚者 しえの記人宮
ものもの
義と 揚の字をまた意作へあるもの
揚者作へまる弟ひ役人のもの
一 才百四十六 聲の方新屋又色宮人弟子
乃しもの
才一 も 掛 作 白 取
才二 引 法 義 揚子
才三 けるる 弟者 海老あるもの
弟者 略聖 かるすまる等もるべし

一 才百四十七 男子は義へ行義の方人表
のかの方義し同あるべし
ちかぐ〳〵 其ものもくれ勝も格
式ものり新屋計ものくの
行義は酒盛ふく調ふと
も方べし あるへ表し行義
の酒盛調ひくもまるもの
必新屋をもの行義の意い
ふりのかれば
一 才百四十八 表方報書行事仏得のまま
一 才百四十九 文章〳〵大概
半ば 永四 債仕作物
と殺聖 月紙目 紙之尾克
お穏大概 なまの仏の行義

市着衣裳を着用し給ふ
紋付羽織袴を着用し給ふ
次に新郎新婦共に
盃を受取り
月日　　条別

右之通相違無之候
の品いろべし　但し　之也
右之外八分　又十分り
金百疋　一　新屋祐兵衛
金百五十疋　一　又右衛門
右の大ぐい

右うきのみかをとく手すべらんず長と条を
のぞき右之むべし大方点を宜しからず
市寿紙を
示物
贈礼の紙
おとこのひし
うしてこれ
市関係
家の代
酒
行く
条
行けり

一才百五十二 就屋月色親類知音あるさ時は月色あくしく嫁中く食事一ぞくと酒るるもあるさ趣けわらんにはかひをへこりと
らん焼いひと○見初どに菓子へ入りしてやさちひこと食さと
いれ立すさるを月人食さと
べし

一才百五十三 盤日就屋より表の見世を代中へ人数を申合ませんぢられ
せいらうとおすべし
并ちく養所へも人数を積

一才百五十四 月まんぢうを二つを
一饗礼弘め月ひの強飯

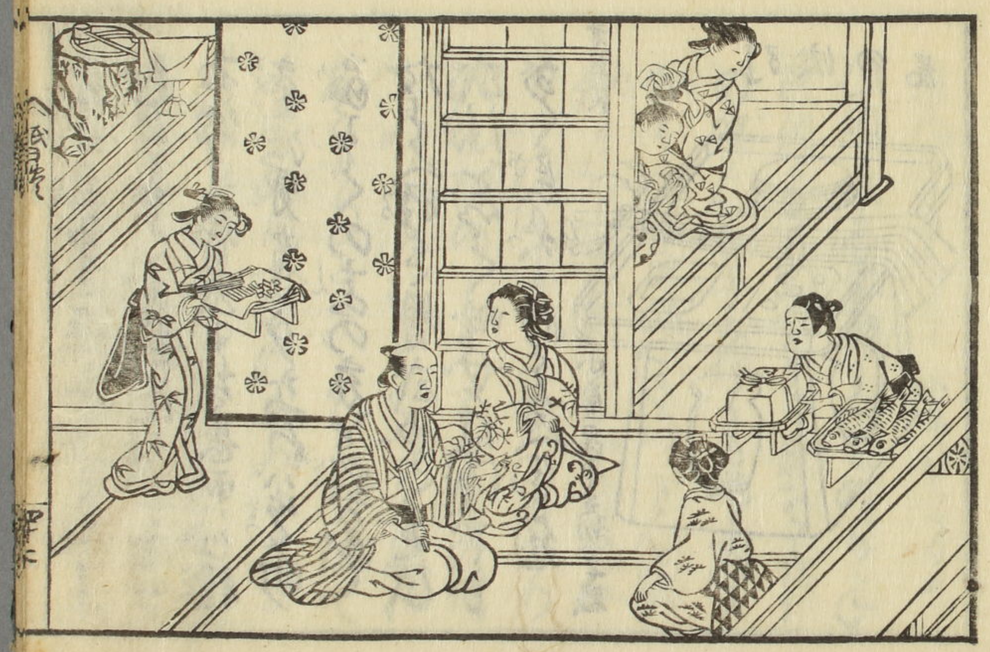
月ことの〻り
糯米稜り
百彩を附　きを石臼弁
仍て きを彩を一升臼八合つをりこ
きの大ふさうくいへともの
きを彩をひつりうしんぐ〻
かくぬなるべし
糯米ハ白米より別る紀
加條原米茎より代米隨
分つをきを入白ぐべし
黒大豆きを合をを五をきをぬ
ふべしくふくふふ
焼塩黒ご飯ぐ紙弁らべ
南天の葉ふ色る用をすべし

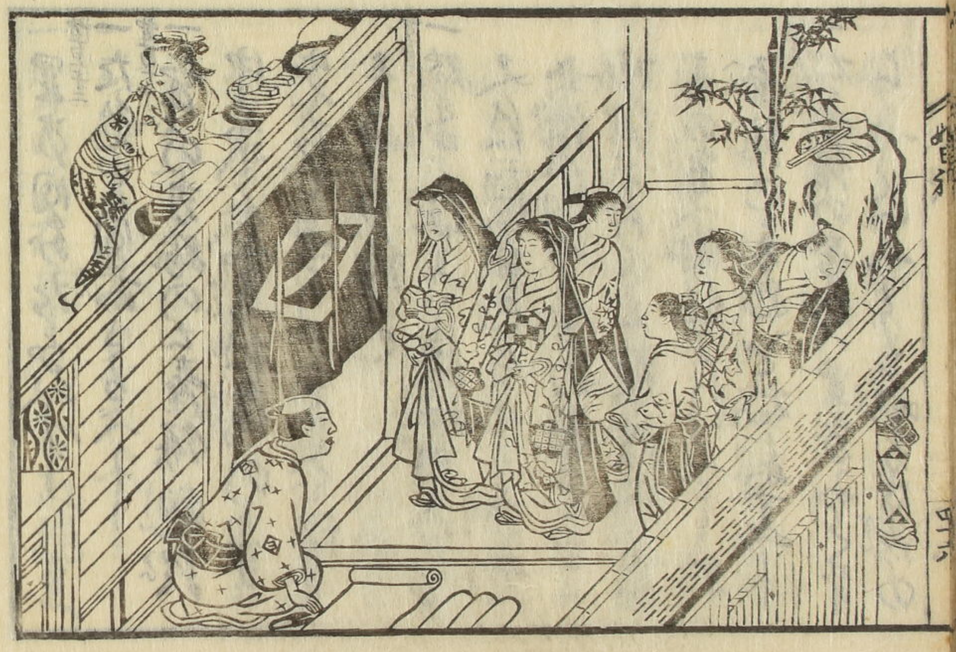
右を重にて丸薬或合薬にて
ふくめ又は煎薬あるいは丸薬にて
を合或は丸薬にて
才百五十五 一 胞の色黄 黄芩 香附
奥ふり 敗の屬にて
才百五十六 一 三日目嫁墨 附子
炭墨より
才百五十七 一 産の方右に同じ 女義この巻
炭 吸物 豆腐 女義は丸薬
才百五十八 一 嫁墨 附子 義 右産物の
強飯 附子 炭入 粉 さはさはとして
才百五十九 一 右嫁より 或は三粒五粒七粒二
左つり 巻よりの
産るべし 産婦人 付

才百六十 一 墨 方 右 産 婦人 乳
才百六十一 胞 口 取 吸物 豆腐 出
一 右 産 婦人 乳
才百六十二 一 嫁 産 婦人 教 乳
才百六十三 一 墨 方 右 産 こもり 親類
知 吉 扱 露 の
才百六十四 一 嫁墨 附子 ひるより 産
乳 吉 物 の
才百六十五 一 双方 親類 中 負 吉 物 丁
巻
才百六十六 一 墨 方 右 負 吉 右 人 乳 産
の人 胞 乳
炭 見 吉 吉 物 の

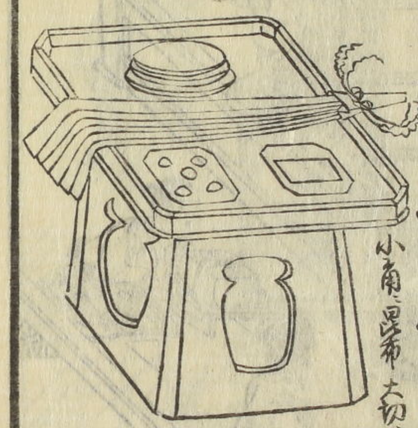
一才百六十七 嫁聟より海産の品
より男女むうひてりをもつて
一才百六十八 右聟ゆくひとの人に成相
金花をくのもの
一才百六十九 嫁聟よりゆりとの品をくのもの
候行家へ入 招者
右出家より渡んず
右の候は来た同あべ此様者
べ〜極をあもてゆひ果をも
外をもワ元或ハ或ワ元
ゆべ〜も格別極をハニワ元
一才百七十 よりをすべ〜
一才百七十一 右嫁より出ん達らをもべ〜
一才百七十二 聟の品産の品 人に成者

一才百七十三 たゆべ〜
一才百七十四 聟家同家へゆべ〜
一才百七十五 親類
中武士和吉扶養のもの
出ん右〜無りをくれ
をあり納る
一才百七十六 嫁姑同乗元
一才百七十七 手濃ぐ後
又は親類のもの〜き老
女濃〜ゆく新屋乃白よ
ゆゆ〜る親類又ん和
吉の方へ御礼よりべ〜別
無の吉和と招来すべ〜
一才百七十八 右無の吉和ハ聟方ゆく手
ら〜〜〜も双方同後の





引波の屏



小角 昌幸 大切 壱枚

才百七十六

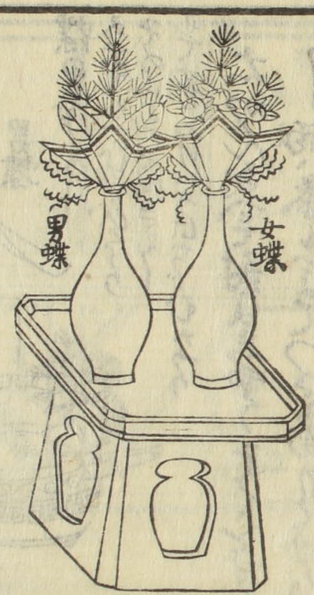
小角 かちぐり 五ツ

此の〜三家の人〜よりの
枕屏ふりの〜きり紙そ〜し
のせんと〜すれども家よ
り〜ぢをのへさけ〜んに
行くもまんも中三ぶぶ
りどにかぐこ三家の内のり
に切板の〜〜〜〜〜〜〜
と乃〜〜のれりく〜〜〜ぬれ
あこうりすくをこり陳て
三家の内〜きりとこま
ふりどのけんぐいまくめ兼ば
けりてをけ〜れ屏ふり
もりくの〜〜〜尾板ともに五人

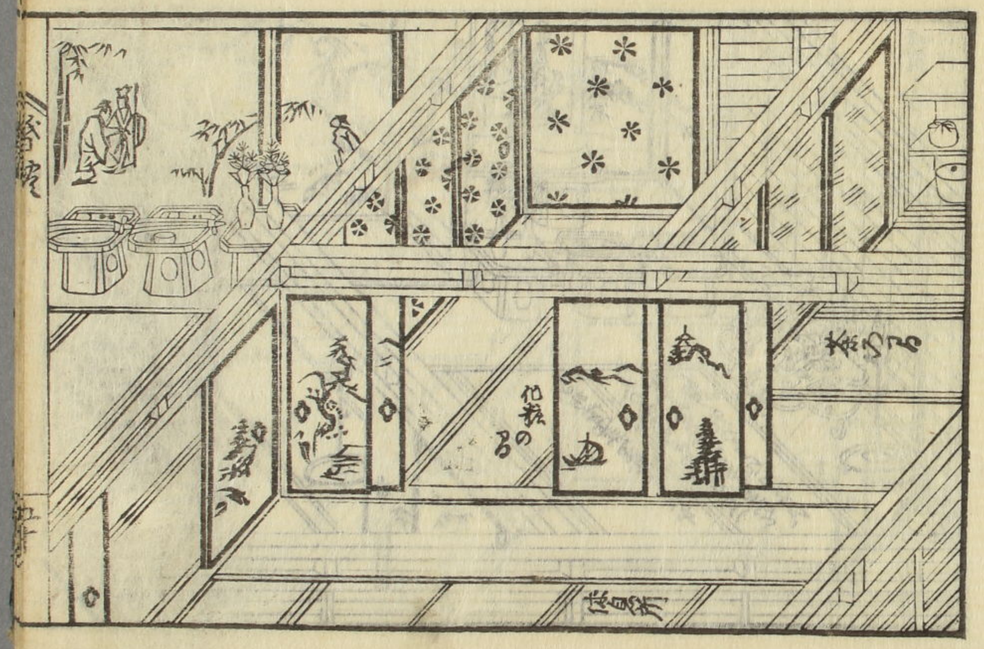
才百七十七
掛
の
篇

の七篇間中あるところへ
つれてくだるのを法あり順
がうものはすべて本はを
ちくつくそこをあらいて篇
まくくくあらりをちぶむ
篇のしし

白去云云教内霧龍松竹
の絵を書
まるく略して八全銀の箔弁
才百七十八
一湯子こ篇



湯子箔りの細六切考る
青屋箔ん切る考るものこ
男蝶必ず赤松ゆづり葉武枝付
女蝶必ず赤松赤橘附る



蝶のひげ五ツ
又筋ゝ白一むしびくり
そのうきゝと細きえ
ゐて書ぬけハめけちぐむなり

たかんがべを紙にかきうそくとすべ
し　栖ハ奉ちよてつゝ白れとゆひ
ゐて十二ゐろくゝうゝと付くゝて
ゐべしひかんがべ成ちのづきゆゝ
ハ種さ紙屋又ハ色のあゐはるゐ

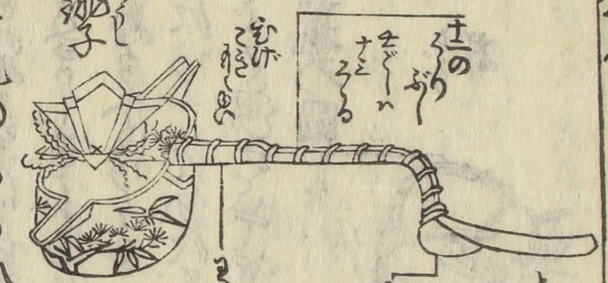
才百八十

一婚式祝云式乃図

第百八十一
賀八千家殿場

一太賀（オヤ）の祝（ヒロウ）の酒（サケ）を酒壺（ツボ）に押（オシ）
蓋（フタ）にこれを〜〜もろかし〜か
らに成（ナル）人（ヒト）角（カド）かける者（モノ）方（カタ）々（ガタ）
一毎（ゴト）に婚式（コンシキ）行（オコナ）ひ俗（ゾク）に七（シチ）日（ニチ）
ゆはひ酒（サケ）をもつて男（オトコ）の方（カタ）へ
聟（ムコ）とうふべし陸（ムツ）月（ガツ）十（ジウ）九（ク）日（ニチ）あ十
日（カ）めに〜〜をうる〜かゝ料理（リヤウリ）を
ゝうゝ易（ヤスク）一（イツ）汁（シル）三（サン）ゝいこの宮（ミヤ）門（モン）の
日（カ）めくも義（ギ）をあ成（ナル）ゝ易（ヤスク）方（カタ）々（ガタ）賀（ガ）
の安（ヤス）を言（イハ）ゝ人（ヒト）もうふべ〜陪（ベイ）ある聟（ムコ）
奥（オク）へ入（イル）り始（ハジメ）て対面（タイメン）すべ〜さ酒（サケ）は
菓（クワ）子（シ）にてすむべ〜なほ易（ヤスク）をう
んたゆふる義（ギ）これ祝（ヒロウ）酒（サケ）をう有
べ〜人（ヒト）ゝうゝやゝ〜ゝ有（アル）べ〜

又（マタ）宴（エン）会（クワイ）などもまつ〜さまを酒（サケ）ちよ
くいるべ〜義（ギ）なれ共（ドモ）ゝんぞ〜と有
るゝ人（ヒト）又（マタ）聟（ムコ）年（トシ）のまへもたれどく
ゝ〜ゝ〜なり
一町（チヤウ）家（ケ）に婚式（コンシキ）は長柄（ナガエ）の銚子（チウシ）提（ヒサゲ）
ふる人（ヒト）まで〜さ〜ゝとあれども自然（シゼン）
弱（ヨワ）ある人（ヒト）もたりんうく〜あ〜ま
こに行（ユク）ゝ人（ヒト）初（ハジメ）に盃（サカヅキ）をい〜
うもてどく揚（アゲ）ゝ酒（サケ）をそ酒（サケ）にたらぬ
銚子提（ヒサゲ）の圖



才一百八十五

一紙こよ挑のたつらひ
紙こよ猿ら猿方と料理方
しるのくひ型くりも同
くら猿方うこと蝶花形も
ゆ柄の色ときのく白紙ふ

くする〉料理方くらい蝶
花形長柄の色も金銀条
紙ふてく色こ流里うゆと七
つくくる扶京紙とわそくくふ
んぜうりして男ゆひ女ゆひ
よすべしー兆七ゆうれ里とつ
うさどる蝶花形と流里がゆ
鼓和にてゆひ付流りがゆの
ゆとふこくさりとゆいにてらんふ
うふくとゆふべしー柄扶京わく
くうりとつくこ柄れきずり
紙こ段こまゆめくく長
こすゆくんと飯形ふてのう

ふて付るずりかうして
里色ふくさ
して柄のうへ
まづりうもとにて三つゆい
十二月に
する宝付なりハ十三月に
ふべし
柄蝶は男てふ
多るべし
柄の結びやうは
まるうちにて九つに結ふ
べしはのとうて
と色ふくさ蝶
ゆいふくさ

ゆり付る柄のうしろにくこ
数をもつて六すれ
尾付る
一女房
の女房乃しゆくはう
武法ハかうをさげかい
りをして
ハつのゆ
いうどりなし
て
内はせあれ
おひりかへし
たりのもに
ちうして

かつら桂をも下に置べし

一花嫁はかんなづくを拵うぐゝく横ゝにして色も色

よく色べしゝゝ四四の附ハ女敬よ

そひおくゝにてつをかるる女敬

ようゆり桂をも下に置と

立ゝゝゆるゝゝむゝはむを

びわひゝへぐもゝゝひゝ

く色とおせ色四へなぐゝな

四ゝうぐる紙ゝゝもろかる

ゆゝ南流ハ女敬ゝ四へゝもに

引ぐゝさゝうゝくゝゝゝ海

ゝく一脈ゝゝゝされゝも

ゝ四へハ女敬のゝの方ゝう

居てゝ

一才百八十七 嫁墨引の日縁人方へ其縁

を色をゝく役ゝに縁をゝせ

者相をゝ色ゝり附縁すべし

女敬方ゝうの礼聟方墨

ゝもに不回なゝゝゝうゝ

ゝ合酒へ可附

一才百八十八 嫁ゝんゝゝゝし縁安良な敬人

ゝゝへ敬人ゝゝげ役右四人へ

弟一ゝんづけ育べし

一才百八十九 いゝゝゝ義十八云

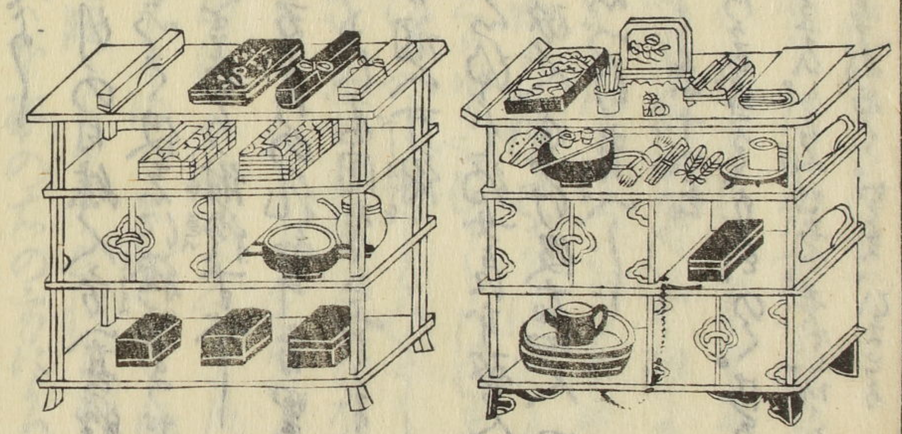
かゝを・ゝゝる・きゝゝ・のゝ・ゝる

さゝる・ゝすゝ・ゝゝゝ・ゝゝゝ・ゝゝゝ

ゝゝる・ゝゝゝ・ゝく・ゝゝゝ・ゝゝゝ

御厨子正図

黒棚正図



御厨子飾り乃法

壹ゝ棚

硯箱
硯屏
筆立
文箱
筆架
香盆
香炉
香箱
銀盤
大たゝ
小たゝ
奉書
扨原

貳ゝ棚

たんそく
まな板
刀
香盆
香炉
香箱
銀盤

參ゝ棚

戸びらの内
短冊
扇
わきのくぼ
參考

四ゝ棚

戸びらの内
双紙類
わきのくぼ
小角帯

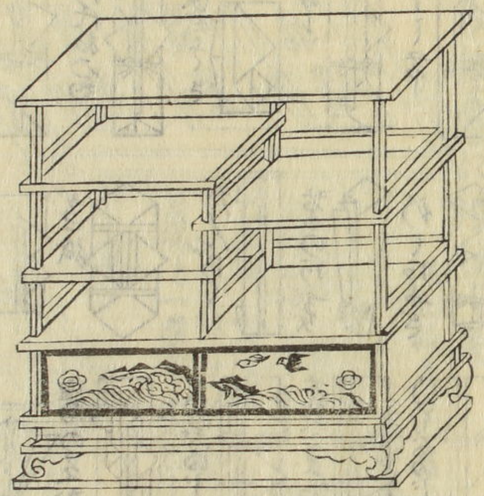
薫物
一所にし
火とり
黒棚ぬりの法
壹こ棚
紙冊箱
硯箱
長文箱
文箱

弐こ棚
古今集
万葉集

参こ棚
戸びきの内
そびしの方
わきたなし
角ばるい
ふるはず

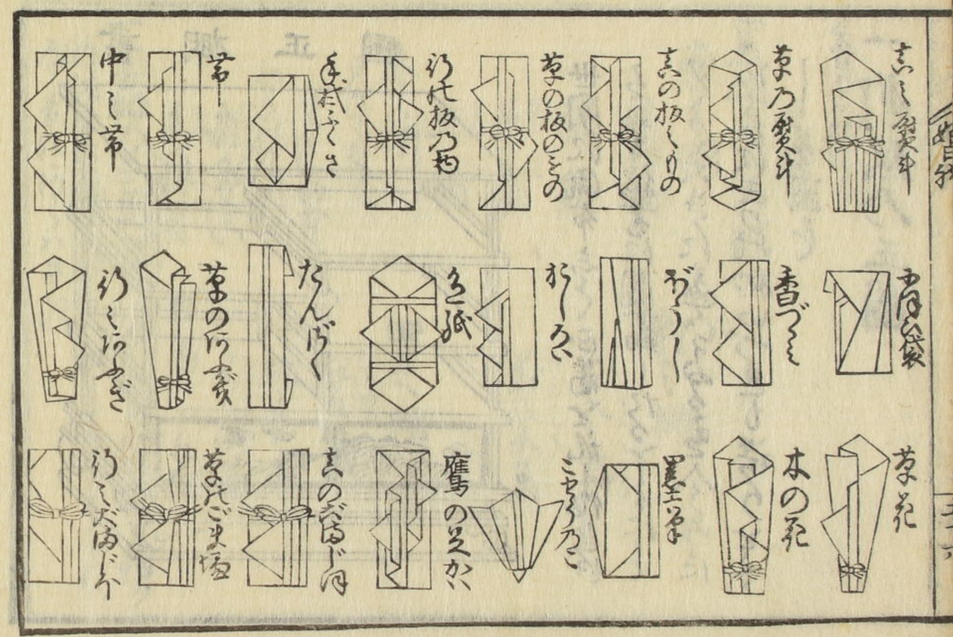
四こ棚
紙しぢこ
そぐ後箱
硬箱

一書棚の正圖は書に圖書正をしへ吹も侍りの法は其磯の南くに松しーうつまりあれハ
今爰にかゝはさん

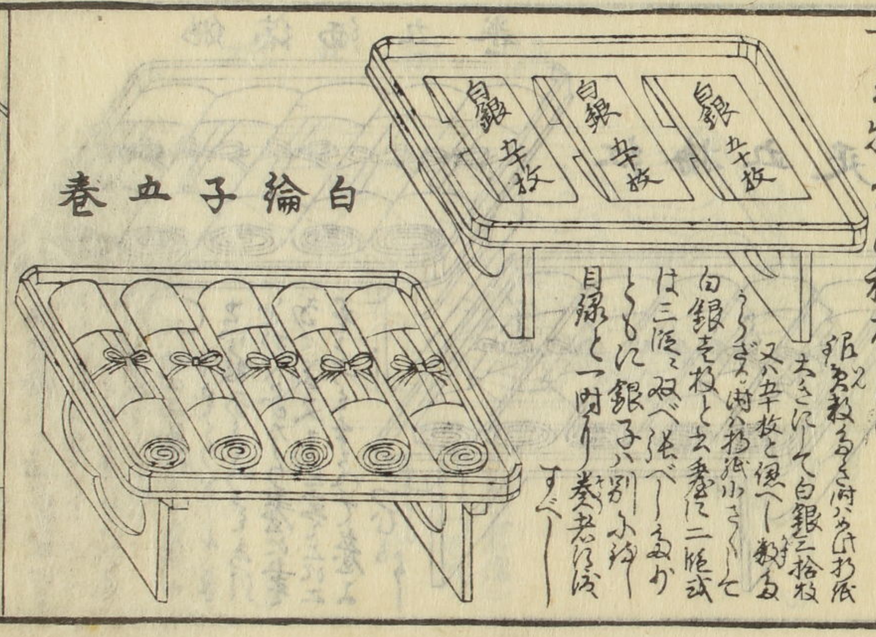


世間に流布ちく正圖を孔しー他ちるも
ろ又ち絵書に圖書しーたるとろたと
くろ大きに毒ひるゆる色今ちに
ひろに三ウ孔柳いづまも侍りとで
ーー圖書也

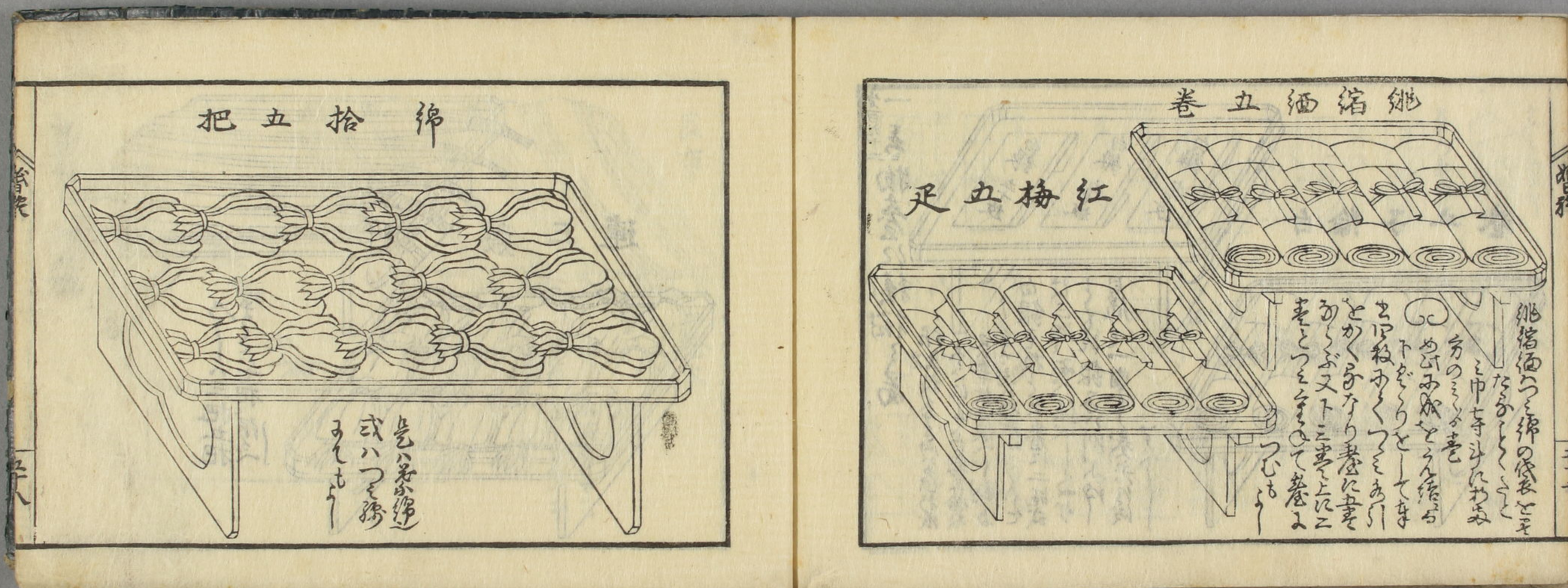
才百九十一
一折敷乃正圖

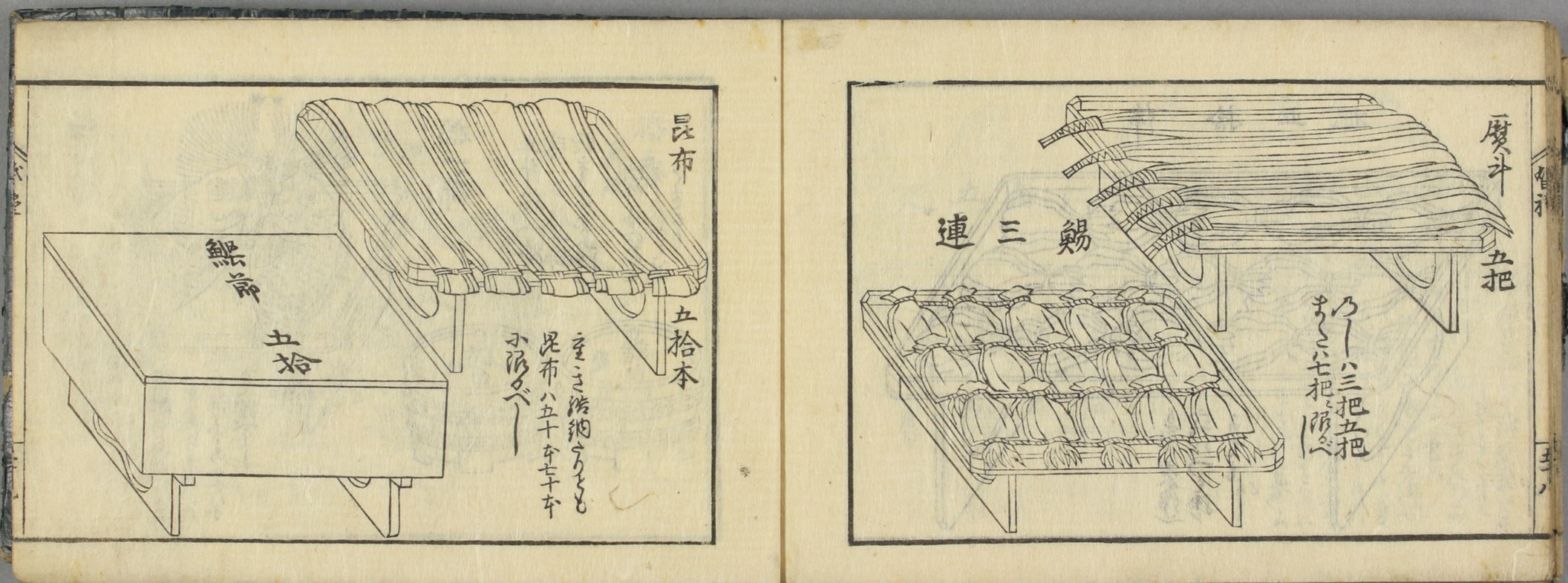


一 吉物叢に積る図

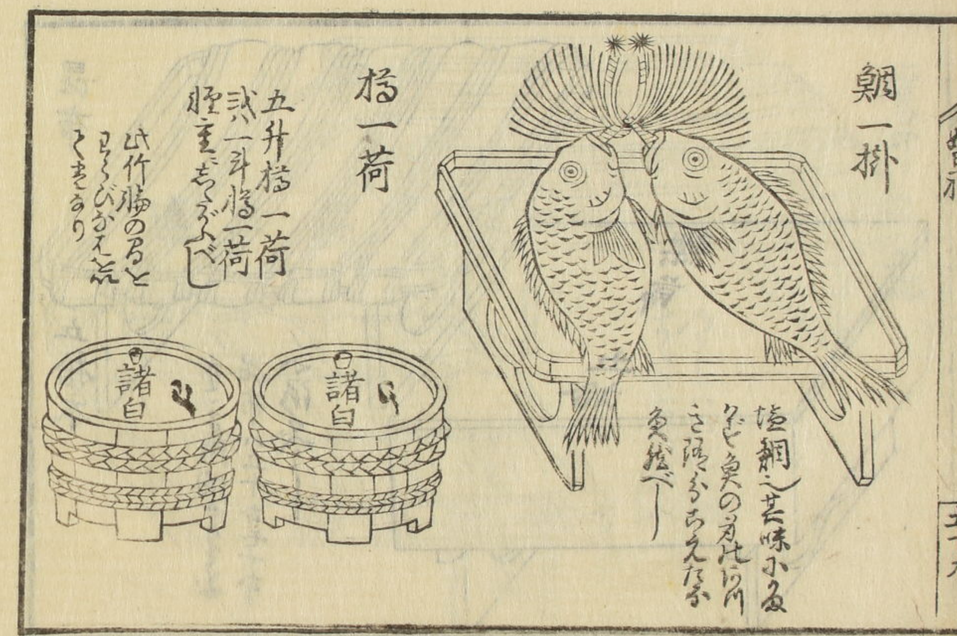


銀紙数多く用ひる紙
大さにして白銀二拾枚
又は半枚と使へし数多
うゝぎの用ひ紙小さゝ
白銀を枚と云巻に二帖或
は三帖ゝ双べ張べし或か
ともに銀子ハ別小袋
目録と一附り巻者に成
すべし


絲縮緬丸巻
紅梅丸足
絲縮緬つゝ綿の袋長さ
なるべくくくと
巾七寸計れ丸
方のこゝが壹
めぶみ紙をうん結ら
下ぐくりをして年
玉印紙ゆくつゝあり
とかくらなり巻に書
あくぶ又下こ書を上に
書をつゝ合して巻よ
つむもら
綿拾丸把
乾八巻綿
或ハつゝ袋
みてもら


昆布
五拾本
熨斗
五把
鰹節
五拾
鰹
三連
ろーハ三把五把
まるハ七把ヶ限べ
是ハ結納ニも
昆布ハ五十本七十本
小ニ成べー

高砂


朝一掛
鯛一荷
五升樽一荷
弐一斗樽一荷
竹筒のもと
諸白
諸白

押巻
蓬来

押巻とは者を望るべし
其ふか分一貝数なるべし
或八月と千鶴恒引のふ
いと所高乃情をもて
とのこらべし

者若は天長そに
金銀の箔すり
乃重べし

○雜物目録　大坂かさいだし小結　和泉屋卯兵衛

歳時古実　ひらがな　全二冊
正月より十二月までの年中行事ならびに雑
社ぶろくさんけいの行事くわしく出る

紅毛擬　油烟紙貞柳　全一冊
貞柳一代の狂歌を名所とつまる大よせ
しらてよきを武まてをくまくを

梅若九一代記　ひらがな表人　全五冊
九一生の間とくしくしく
天狗とちがうをむまひしくまとをぐ門の中来

愛護若一代記　ひらがな表人　全五冊
九一生代出しけい母姫多ぐんの石者う屋
磯のまろ志賀のゆくろのは来名をくしくす

後徳九一代記　ひらがな表人　全五冊
九一生ぬけの表義ふくつふ
てをあんくく九天豆寿西門ま
けいのゆくくう都をくくせくるを出を

みをしたくし　大坂新町細見　全一冊
ろくもの仕素人不こせんたくの方法天ーん
ひいたるようぶろ女帯げいこけしをもうらて紙
用達帯のさかりあげ屋のどしき屋まるの
絵屋にくい対名まぐくまーを出を

婦人手紙屋　りーろる小本　全一冊
さんぜんさんごふんぞんのやうやくまーるひ
其外ゐーさまのいの姫茶屋手引じのかあり

元禄重宝記　りーろる小本　全一冊
俗木茶元このをれるれうりの数を入をぞそ
ゆう金奥名名紙ゆうまぞくいーく出を

兵法奥儀抄　りーろる結果入　全二冊
山本勘ゑ秘とる書にく秘術術郷を志ぐぐる
りの旦強盗の雑ー出あひうる付力を出さび
を雑とのろーの姫斗とくまーく出を

筆力指南大成　りーろる　全一冊
和漢筆名の仕代でん歩西の極名紙あーく
名あらふ人の名ひう姫べさるを志ろす

万世秘事枕　りーろる文入　二冊
奥紙かんぶろぞものろさ、社地さくまゆう
そくざのつ事うつまたつろ事日用家ふい
重宝ゆるもみーくをいざーく大人小児婦人衣
庵のまうーゆひ姫茶名まぞくいーく出を

世宗傳授袋　秘事枕法海　りーろる文入　三冊
秘事まらにりまる味酒かいまもの名を
きづた諸ぐくむーのさうゆうをべて志て
ようこ姫にく名ひろるまふくくを出に

弘郷さんげ袋　りーろる文入　二冊
ざーきふぐさもものにく用ろ日紙ろう
ちん茶さ白の若をづゆうげ名紙ざくそく
さのけうにゆるまを志ふぐくいでを

唐士秘事の海　りーろる文入　二冊
さんげぶく法に出ざる屋人乃姫志事の
おと仏人のおゆいを屋中にくあーくを
ゆをまるーく出を

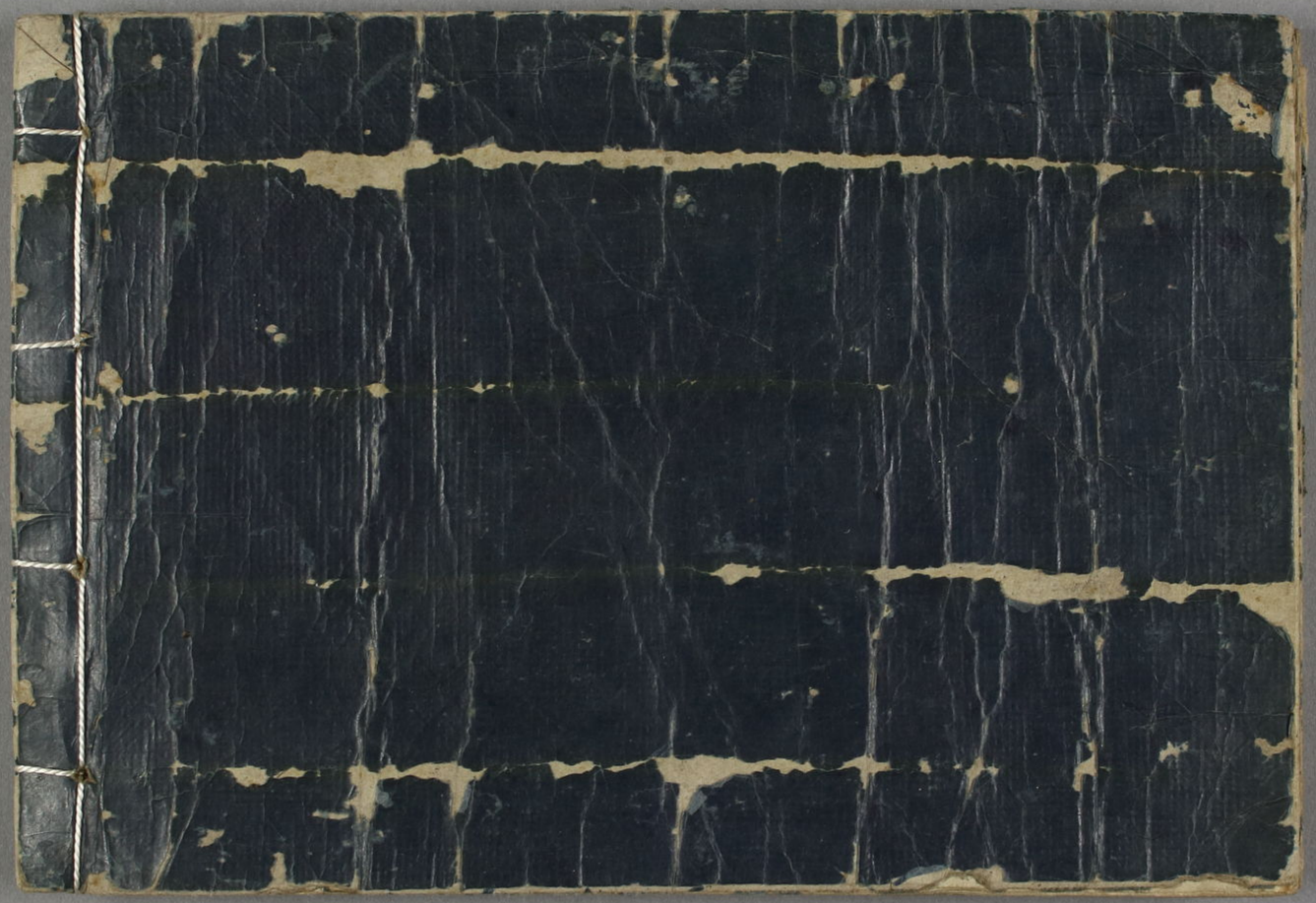
改心服忘草　一冊
任勢脇袖ゑぐく狂歌のいとけなきの物
名をあつめ〜二十二社の絵ぞうをいざと

厳島宝記　一冊
五中七月〜五月日の事ひらがなひんぬけをたち全
狂歌〜狂〜〜〜〜雷荒狂みぞれ安乱
又他出用其外事のまけをくい〜く記

絵本狂言大全　六冊
貞柳太鼓のおどけ言をくえくとうどう
こと葉の名ぶつの絵を出を

絵本智恵袋　二冊
さび〜きぜつめさほ〜の法ぞ女男女のか
どけ深さのおもしろきを絵を出〜とう
ささ春うんの文をくえる

義法伝板車　一冊
新つりうへ
八さん見一よう開卒開五を加差すだん
ろう紀よりきさる法りうふくを出

大坂書林　仏教橋山法
和泉屋卯兵衛

婚礼饗宴要録巻下終
寛延三歳午八月開板
寛政七歳卯正月再板
雕刻　浪花　戸田金蔵
浪華書肆
心斎橋筋北久太郎町
河内屋喜兵衛
同心斎橋北詰
泉屋卯兵衛